

Japan Hemodialysis Assistance Team

JHAT

in disaster

日本災害時透析医療
協働支援チーム



JHATは、

- 1) 災害時透析医療において、日本透析医会災害時情報ネットワークによる災害時情報伝達システムを最大限に活用する。
- 2) 構成団体は、日本透析医会、日本臨床工学技士会、日本腎不全看護学会、日本血液浄化技術学会及び、本提案に賛同する透析医療関連協力団体(企業)とする。
- 3) 被災後における透析医療継続、再開に向けた迅速、円滑な情報収集、透析医療業務支援、物資の供給、などを行う。
- 4) JHAT隊員として個人の職種、氏名を明示し、被災地における不審者と見なされることなく積極的な活動を行う。

以上のような趣旨により災害時における医療支援、支援物資供給センター設置などを迅速に行って参ります。

2017年某日 早朝 4時49分 大阪市



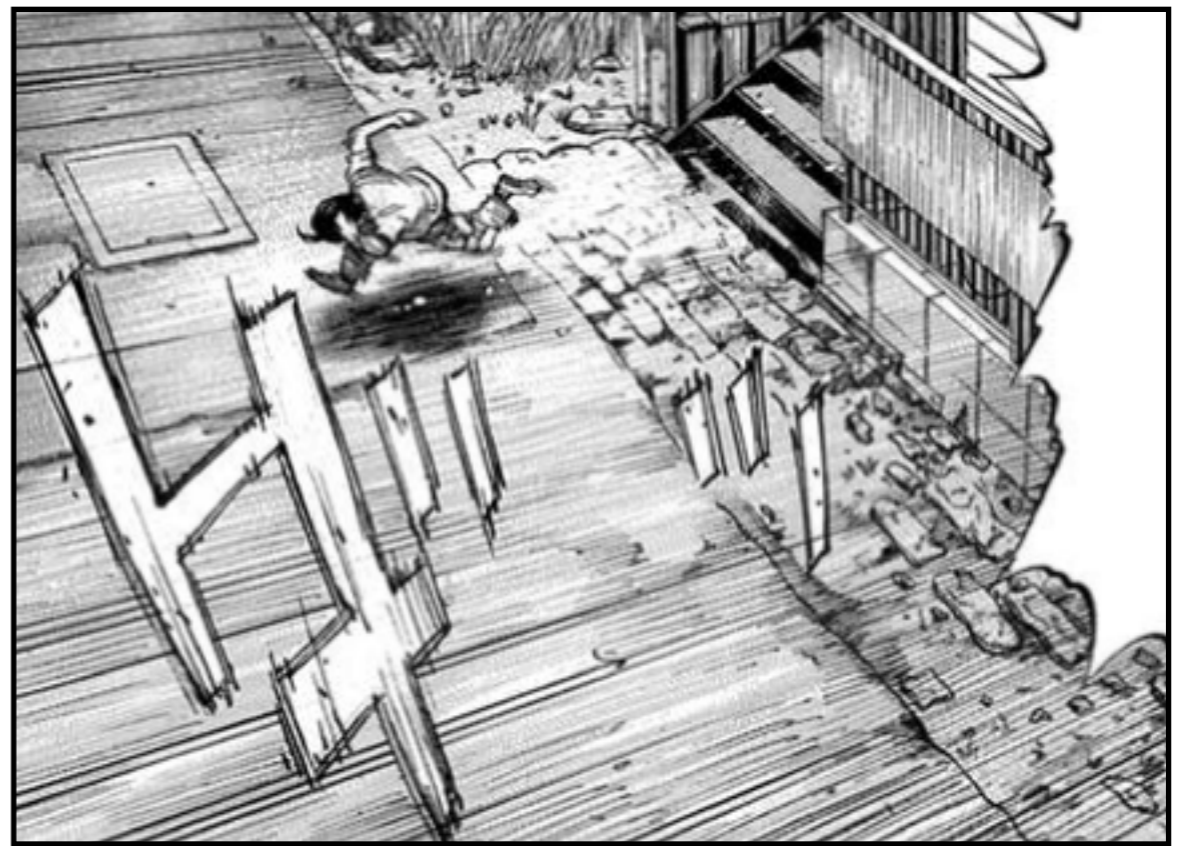
地震速報です



和歌山県南方沖を
震源とする地震が
発生しました

地震の規模を表す
マグニチュードは
9.1と推測
されます

来てしまったんだ

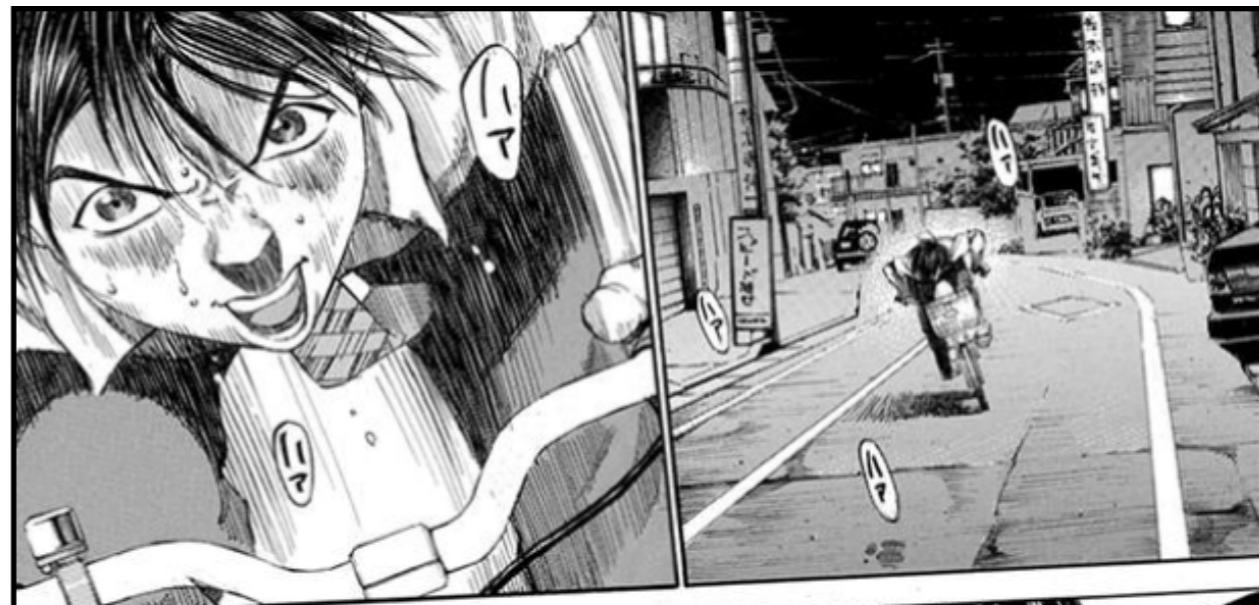


過去に発生した 海溝型地震の被害

2011.3.11 14時46分18.1秒
東北地方太平洋沖地震

日本観測史上最大
マグニチュード9.0 最大震度7

地震 津波 原発事故による
死者・行方不明者 18,455名



大規模
災害

地震

命が
消えてく

津波

地震発生30分後 JHAT事務局



まずは日本透析医会災害時情報ネットワークに被害状況を入力してください



大阪市中規模病院 地震発生後1時間経過



大阪の沿岸部にも津波が
・
・
・



南海トラフ巨大地震 被害想定

死者32万3千人

倒壊焼失238万6千棟

停電2710万軒

都市ガス180万戸停止

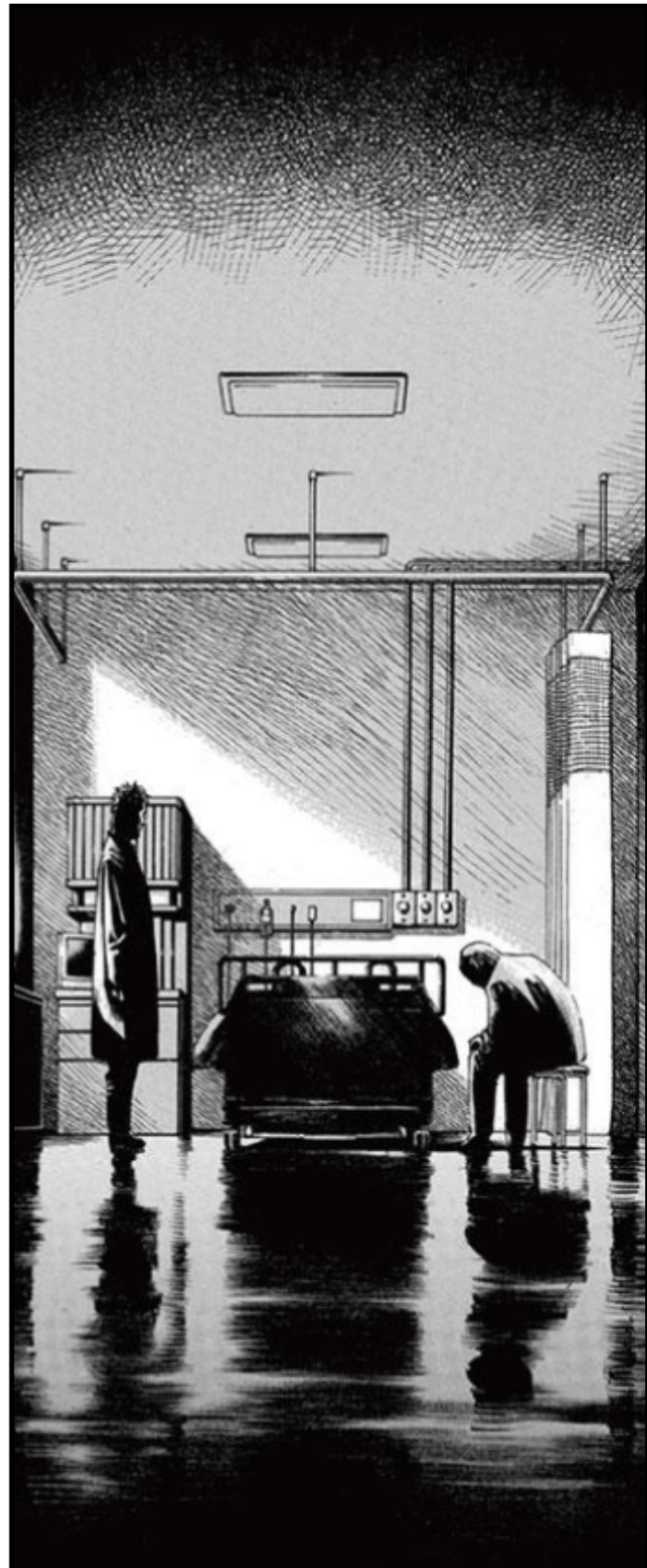
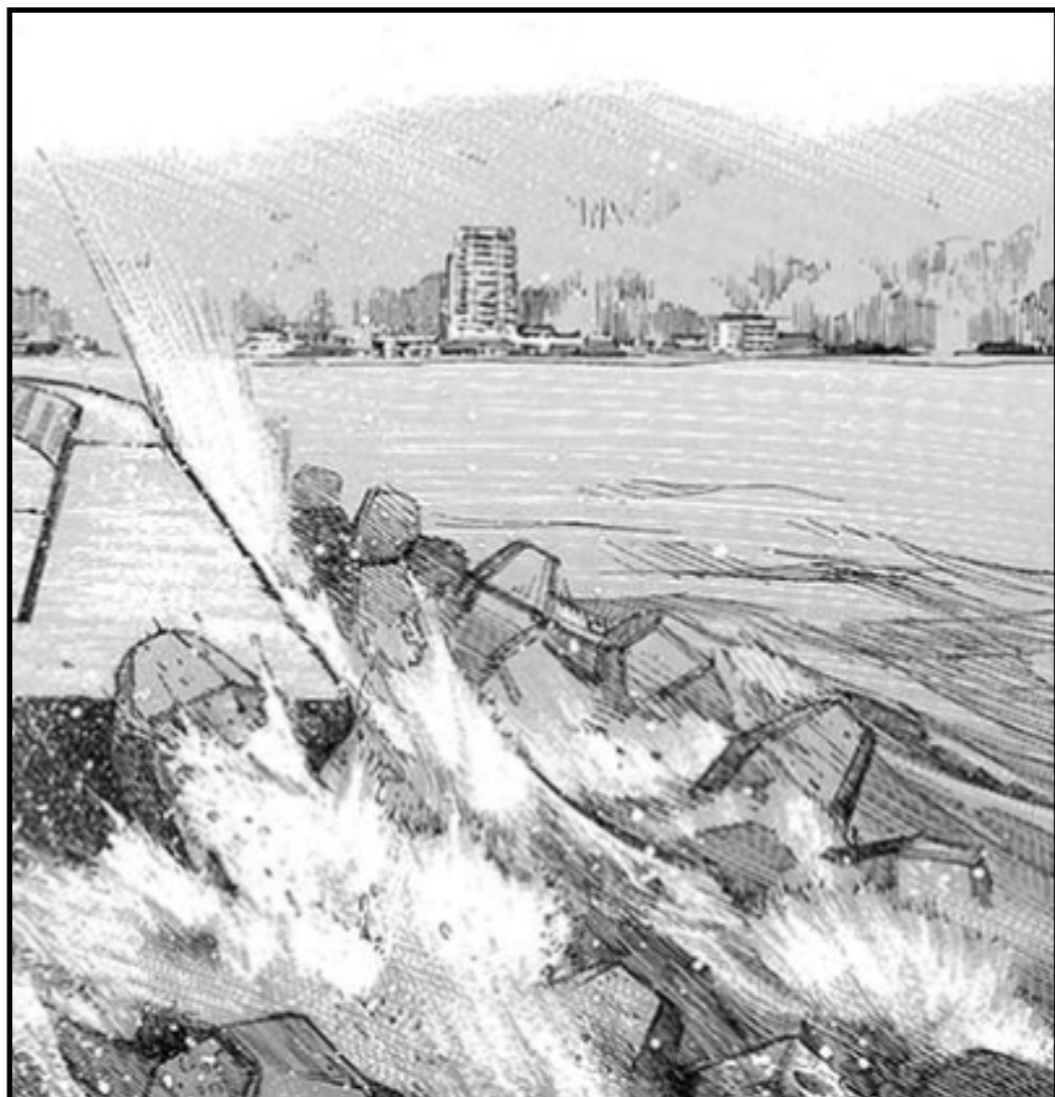
上水道3440万人使用不可

下水道3210万人利用困難

固定電話930万回線通話不能

発生確率 30年以内に70%

壊滅的な被災地への想いが募る・・・



不眠不休の治療

被災地では、透析可能な施設に被災した透析患者が集中します。そのため、一手に受け入れることになった施設は、可能な限りを尽くして不眠不休で治療を行います。いつも通っている透析施設が利用できずに溢れかえった透析患者もそうですが、治療にあたる医療スタッフもまた被災者であることを忘れてはいけません。隣接する都道府県のみならず、全国からの支援が必要です。



地震発生3日目 被害がなかった兵庫の病院



※JHATに参加するには施設長の許可が必要です



なに言ってるんだ
あのバカ



院長、JHATの活動に
参加させて下さい!!



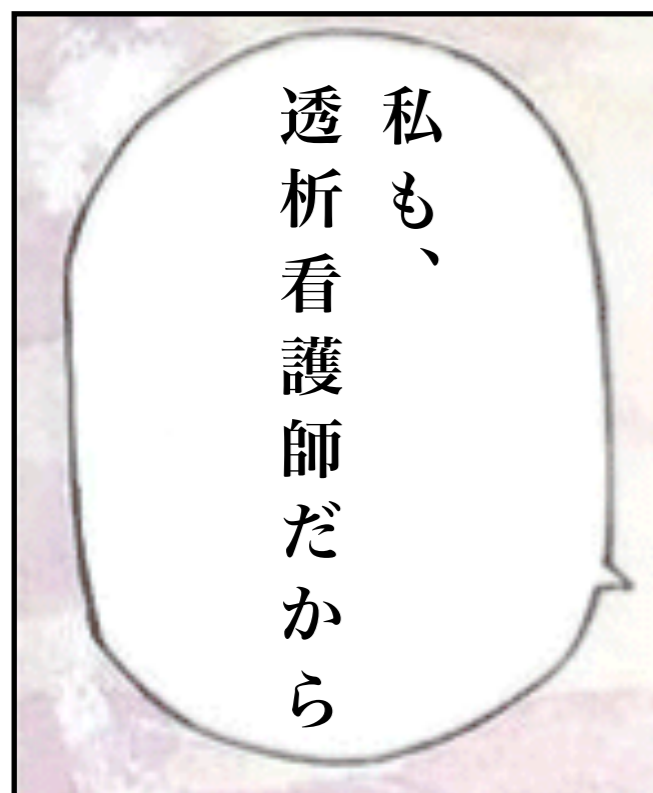
災害発生時の行動概略

メディア報道及び情報コーディネーターからの情報を集約して被災地域を特定します。

- 該当する被災地域及び被災地周辺地域の支援コーディネーターの複数グループを被災地に派遣します。
- 派遣された支援コーディネーターは、グループ間で連絡を取り合い、現地のキーパーソンに接触して被災情報を得ます。
- 得られた情報は本部へ報告し、本部は「joho-ML」へ報告するとともに支援物資及び支援ボランティアニーズを調整します。
- 派遣された支援コーディネーターは情報収集を主目的としますが、業務支援が緊急的に必要になった施設に遭遇した場合、可能な範囲でこれに協力、支援にあたることもあります。



付き合うわ！
だって・・・



私も、
透析看護師だから

構成団体の中心を日本臨床工学技士会（災害対策委員会）、日本腎不全看護学会（リスクマネジメント委員会）、日本血液浄化技術学会（災害対策委員会）などの実働的団体および日本透析医会とし、従来からわが国で構築されてきた透析医療における災害時情報ネットワーク災害時情報伝達方式を有効に活用するために強固な連携を構成、維持します。

2011年3月11日金曜日といえば、誰もが「東日本大震災」(以下、3.11)が起きた日として記憶に新しいことと思います。しかし、1995年1月17日火曜日と聞いて「阪神淡路大震災」を思い浮かべる人が、どれほどいるのでしょうか。

人の記憶は曖昧といわれますが、阪神淡路大震災の経験は、16年後に起きた東日本大震災に確かに活かされ、特に日本透析医会災害時情報ネットワークによる災害時情報伝達は、迅速な支援活動に大きく寄与したこととして根付きました。災害時における透析医療には、このような情報ネットワークが必須の機能であり、情報を活かすことに大きな意義があります。

現在、東南海広域、首都圏直下型の地震が危惧されており、その被害規模は、3.11を遙かに超えるものと予想されています。3.11での経験がそのまま通用するとは思えませんが、これまでの経験してきたことを次の災害に活かすことこそ、被災された方々や不幸にして命を落とされた方々へ報いる唯一の道であろうと考えます。

今回、透析医療における災害時情報網をさらに拡大し、縦横無尽の情報共有と支援活動を目指し「日本災害時透析医療協働支援チーム：JHAT」を設立しました。

JHAT隊員募集中

日本災害時透析医療協働支援チーム「JHAT」では、活動の中心となる JHAT 隊員を募集しております。

JHAT隊員の業務は、先般の熊本地震でも活動しましたように、

- 1.先遣隊(現地調査隊)
- 2.業務支援、
- 3.支援物資供給

を三本柱として活動いたします。また、これらの業務を行うにあたり、JHAT隊員の育成活動に加え、顔の見える関係を築くことを主目的として、平時における事前準備活動も行っております。

ご応募に際しては、「隊員登録申請書」に必要事項をご記入のうえ、ご送付ください。

詳しくは <http://jhat.jp>